

令和7年9月5日

貝塚市議会議員 阪口 芳弘 様

第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 参加報告書

公明党議員団

前園 隆博

日時： 令和7年8月27日（水）～28日（木）

場所： 札幌文化芸術劇場 hitaru

研修名： 第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌

テーマ「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」

主催：全国市議会議長会

後援：総務省

今回は、地方議会議員のなり手不足問題に焦点を当てた研究フォーラムです。
基調講演、パネルディスカッション、そして課題討議の三部構成で、元衆議院議長や大学教授、
新聞記者、現役地方議員などが多角的に議論しています。

このフォーラムでは、統一地方選挙における投票率の低下や無投票当選者の増加といった現状
を分析し、地方自治法改正や議員の多様性確保、報酬のあり方、ICT化の推進など、具体的な解
決策が模索されています。

特に、岡谷市議会や白山市議会の事例報告からは、市民との対話を通じて議会活動の透明化を
図り、なり手不足解消に向けた実践的な取り組みが紹介されています。

目的

本フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、共通する政策課題等について情報交換を
行い、議員同士の一層の連携を深めることを目的としています。

特に、地方議会議員のなり手不足問題に係る事例を検証し、改めて地方議会の課題を整理した
上で、その解決に向けた今後の方向性を展望することを目指しました。

プログラム

【第1日目：8月27日（水）】

- ・会場：札幌文化芸術劇場 hitaru
 - ・中継会場：札幌パークホテル 3F「エメラルド」
 - ・開会式：13:00
 - ・基調講演：13:20～ 「主権を預かる誇りと責任」
 - 講師：伊吹 文明 氏（元衆議院議長）
 - ・パネルディスカッション：14:40～ 「多様な人材の参画促進の観点から 地方議会議員のなり手不足問題を考える」
- コーディネーター：辻 陽 氏（近畿大学法学部教授）

パネリスト:

- 牧原 出 氏 (東京大学教授)
- 白石 洋一 氏 (読売新聞東京本社政治部次長)
- 山下 節子 氏 (山口県宇部市議会議長)
- 長内 直也 氏 (北海道札幌市議会議長)

• 意見交換会: 18:00～ 札幌パークホテル B2F「パークプラザ」

【第2日目: 8月28日(木)】

- 課題討議: 9:00～ 「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」
 - コーディネーター: 牧瀬 稔 氏 (関東学院大学法学部地域創生学科教授)
 - 事例報告者:
 - 今井 康善 氏 (長野県岡谷市議会前議長)
 - 平神 純子 氏 (鹿児島県南さつま市議会議員)
 - 中野 進 氏 (石川県白山市議会議長)

• 閉会式: 11:00

• 視察: 11:30



主な議題と議論のポイント

フォーラムでは、地方議会議員のなり手不足問題が多角的に議論されました。

なり手不足問題の背景: 地方議会や議員に対する無関心や不信感が広がり、地方議員選挙における投票率の低下が顕著です。

ここ数回の統一地方選挙では、無投票当選者や定員割れが大幅に増加しており、特に小規模市議会でのなり手不足は深刻化しています。

総務省の調査では、市区議会議員の年齢構成において30歳未満はわずか0.7%であり、若者の参画が低い現状が示されています。女性議員の割合も、市区議会では20.3%、町村議会では14.1%と

低い水準です。

令和5年地方自治法改正と対策:

今回の地方自治法改正では、地方議会の役割及び議員の職務の明確化が図られました。これにより、各議会における運営上の工夫や住民理解を深める取組を通じて、多様な人材の議会参画に資することが期待されています。

なり手不足解消に向け、国は経済団体に対して立候補休暇等の自主的な取組を要請しています。

議会側には、育児・介護等の取り扱いを明確化する会議規則の整備、ハラスメント相談窓口の設置、女性模擬議会の実施、夜間・休日議会や通年会期制の活用による柔軟な会議日程の設定が求められています。

議員報酬についても、特に小規模団体における低水準がなり手不足の一因と指摘されており、住民の理解と納得を得た上での適正な報酬水準の議論が重要とされています。

なり手不足の二つの類型（牧瀬稔氏による）:

諦観的なり手不足: 主に都道府県議会議員選挙に見られ、「勝てる見込みがない」ために出馬を控えるケース。関心があっても諦めている状態。

必然的なり手不足: 主に町村議会議員選挙に見られ、議員報酬の低さ、政務活動費の不足、プライバシー確保の困難さなどから「議員になろうと思わない」状態。

議員という職業の魅力が感じられない「コスパが悪い」状況。

白石洋一氏（読売新聞東京本社政治部次長）からの提言:

なり手不足の要因として、高額な選挙費用、低い報酬、介護・育児との両立困難、多忙な日々、落選のリスク、虚偽情報による非難、ネット時代の選挙活動の難しさなど。

解決策として、「地方版政党交付金」の検討、人材供給システムの構築、有権者の意識改革、「出たい人」だけでなく「出したい人」が出馬できる環境整備を提案。

クォータ制、立候補休暇、夜間議会、オンライン導入の推進や、被選挙権の条件を緩和し“「ふるさと議員」制度（仮称）」の導入可能性についても言及。

日本の選挙制度が「ガラパゴス化」していると指摘し、なり手不足を契機とした大胆な見直しが必要であると強調されました。

事例報告の概要

課題討議では、3つの自治体から具体的な取組が報告されました。

長野県岡谷市議会（今井康善前議長）の取組:

令和5年の市議会議員選挙で、全国で唯一定数割れの無投票という不名誉な事態に直面。

この危機を受け、新たな議会体制で「議会情報のオープン化」「住民の議会への参加」「議会機能の強化」に加え、「議員のなり手不足対策」を重点項目としました。

具体的には、SNSを活用した広報活動、プレス発表強化、市民参加型意見交換会、「マニフェスト

スイッチ」による議員政策の公開、小中学生への啓発活動などを実施。

「議員のなり手不足に向き合う」シンポジウムや市民との対話集会（全 6 回）を開催し、市民と議員が一体となって議論を深めました。

その結果、議会改革検討委員会で定数・報酬について議論し、定数を 18 から 16 へ削減する条例案が可決され、次期統一地方選挙から実施。

石川県白山市議会（中野進議長）の取組:

令和 3 年 2 月の選挙で定数割れの危機が顕在化し、なり手不足が深刻化しました。

「未来へつなぐ議員の在り方検証委員会」を設置し、議員討論会では「若者や女性議員が少ない弊害」や「選挙に出られない理由」などを深く議論。

解決策として「万が一落選しても復職できる仕組みづくり」や「議員の待遇改善」が示されました。

東国原英夫氏を講師に招いた「白山市の未来へつなぐシンポジウム」を開催し、市民の関心を高めました。

「みんなでギカイを考えるキカイ（MGK）」実行委員会を立ち上げ、市内 19 団体と意見交換会を実施。

この意見交換会では、議員のなり手確保、投票意識向上、議員の兼業・請負禁止、適正な議員報酬が主なテーマでした。

政治倫理条例の一部改正や会議規則の改正（欠席事由の明確化、オンライン出席、報酬特例）など、議会の内部改革も積極的に推進。

報酬見直しについては、市長の急逝や能登半島地震の影響で、報酬審議会の設置には至っていないものの、継続して取り組む姿勢を示しました。

令和 7 年の立候補状況では女性が 3 人となり、手応えを感じていると報告されました。

鹿児島県南さつま市議会（平神純子議員）の取組:

平神議員は、臨月の選挙で初当選を果たすなど、多様な経験を持つ女性議員です。1996 年には「鹿児島県内の女性議員を 100 人にする会」を立ち上げ、「全国自治体女性議員マップ」の作成や、候補者の発掘から選挙までのボランティア支援を通じて、県内の女性ゼロ議会解消に尽力していることが紹介されました。

所感

今回の研究フォーラムは、「地方議会議員のなり手不足問題」という喫緊の課題に対し、全国の市議会議員が一堂に会し、多角的な視点から議論を深める貴重な機会となりました。

伊吹文明氏による基調講演では、地方議会議員が負託を受けた住民に対し、誠実に職務を全うすることの重要性が改めて示唆されました。

パネルディスカッションや課題討議では、地方自治法改正の背景や内容、そして具体的な課題（低い投票率、無投票の増加、若者や女性の参画の少なさ）が共有されました。

特に、牧瀬稔氏が提示した「諦観的なり手不足」と「必然的なり手不足」という類型は、なり手不

足問題をより深く理解するための新たな視点を提供しました。白石洋一氏の提言は、供託金制度の見直しや「ふるさと議員」制度の可能性など、大胆な視点からの改革の必要性を示すものでした。

岡谷市議会や白山市議会、そして平神純子議員からの事例報告は、各自治体が直面する困難な状況（定数割れ、候補者不足）に対し、市民を巻き込んだシンポジウムや対話集会、議会運営の改革（欠席事由の明確化、オンライン化、ハラスメント対策）といった具体的な対策を通じて、積極的に課題解決に取り組んでいることを示しました。これらの実践事例は、他地域の議会にとって大いに参考となりました。

本フォーラムで得られた知見や活発な議論を 今後の市議会における主体的かつ持続的な議会改革、ひいては市民にとって魅力ある議会づくりの一助となるようにしたいと思います。

視察 札幌市「次世代エネルギーの活用」

1. 札幌市中央区役所庁舎

今年 2 月に新庁舎がオープン。道産木材や札幌軟石などを使い、愛着のもてる景観に配慮した内装・外装とし、下水熱のエネルギー活用や省エネルギー化などの環境への配慮、防災機能などの特徴を備えています。



道産木材



札幌軟石



下水熱利用、

2. エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東

札幌市が進めている「水素モデル街区」にオープンとなった、北海道初となる大規模商用水素ステーション。

本ステーションは、燃料電池車（FCV）に加え FC バス、FCトラックなど大型商用車両への充填に対応、水素充填設備を 2 ライン搭載しメンテナンスやトラブルが発生しても、いつでも充填できる体制になっています。



水素ステーション

燃料電池自動車（FCEV）

内装



水素ガス貯蔵エリア



水素ガス圧縮機、冷凍機

3. モエレ沼公園

雪は解けると冷水になります。この冷水を熱利用して冷房にするのが雪冷房です。

公園内に積もった雪を断熱された雪貯蔵庫に蓄え、夏期（6月～9月）にガラスのピラミッドの館内を「熱交換冷水循環方式」で冷やします。



いずれの施設も素晴らしい技術が使われており、感銘しました。

特にエア・ウォーター水素ステーションについては、今後、ガソリン代替に期待がかかっていることにより、今後の動向を注視したいと思います。

関係者の皆様、大変にありがとうございました。